井上かつひろ
ホームページ
☆「QR コード」を読み取って閲覧☆

「住民こそ主人公」
市議会報告
きずな

「きずな」の定期配布
「きずな」は、市政や市議会など身近な情報を提供する地域情報紙をめざしています。定期的な配布（無償）希望の方は連絡を下さい。

第 1080 号
2024 年 6 月 2 日
発行　日本共産党井上かつひろ事務所
薩摩川内市樋脇町塔之原 10439
TEL 38-0237 携帯 080-3996-0237

国立・市立大学 「学費値上げ反対、高等教育無償化を」署名運動スタート

日本共産党薩摩川内市委員会は、国立・私立を問わず大学の学費が値上げされ悲鳴が上がっていることから、日本民主青年同盟（民青）や全国労働組合総連合（全労連）青年部などでつくる「明るい革新日本をめざす中央青年学生連絡会議」（中央青学連）の署名「私たちは学費値上げに反対し高等教育無償化を求めます」にとりくんでいます。

新聞報道によると国立では２０１８年に東京工業大学が学費値上げを表明、東京芸術大学は２０１９年から、千葉大学・一橋大学・東京医科歯科大学は2020年度から値上げ、東京大学は来年度の新入生から53万５８００円から64万２９６０円に値上げする可能性があるとのことです。

また私立大学の場合、しんぶん赤旗日刊紙５月18日付（１面）によると表のような値上げ、あるいは値上げ表明があるとのことです。

大学の初年度納入金は、国立大学で８１万７８００円、私立大学では平均１３５万７０００円にも及んでいます。その一方で、奨学金は貸与制が中心（半分が有利子）のため、学生の３人に１人が平均３００万円の借金を背負って社会に出ています。その総額は10兆円近くにもなります。

大規模私立大学の授業料値上げ

大学名	学部	入学金を含めた初年度納付金
早稲田大学	法学部	117万円→125万円
	理工学部	170万9千円→184万7千円
立正大学	全学部	7万円超の値上げ
立教大学	全学部	5万円値上げ
慶応大学	全学部	2万円～5万円の値上げ
東京理科大学	全学部（経営学部を除く）	10万円の値上げ（二部は7万円）
立命館大学	1学部を除く全学部	8万～約11万円値上げ

学生や保護者の負担能力を超えた高い学費のために、「バイト漬け」、「バイトが必修」の学生生活が当たり前になっています。「仕送り」は１９８２年以降最少となり（全国大学生協連調査）、授業期間中にも日常的にアルバイトをする学生は、全学生の４分の３になっています。

「私たちは学費値上げに反対し高等教育無償化を求めます」署名運動のお問い合わせは、日本共産党薩摩川内市議会議員の井上かつひろ（080-3996-0237）まで。

子ども医療費 未就学児の窓口負担なしに

鹿児島県議会議員の情報によると、鹿児島県は所得制限なく未就学児の医療費を医療機関で窓口負担なしにする方針です。実施時期など詳しいことはわかっていません。

現行では住民税非課税世帯のみ高校卒業まで医療費の窓口負担はありません。

薩摩川内市の子育て支援課に「県が未就学児の現物給付をすれば、小学校に上がる前は窓口負担がゼロだが、小学1年生から高校卒業までいったん窓口で医療費を支払ってあとから償還払いするということか」と問い合わせると「そのようなことになるのではないか」と話していました。

所得制限なく未就学児の窓口負担がゼロになれば、薩摩川内市では、所得に関係なく未就学児の窓口負担はなくなり、小学生から高校卒業までは住民税非課税世帯の子ども医療費の窓口負担はありませんが、課税世帯は、これまでどおり償還払いになると見られます。

県が未就学児の所得制限をなくして現物給付をした場合

		未就学児	小学生から高校卒業まで
現行	非課税世帯	医療費の窓口負担なし	
	課税世帯	償還払い	
県が子ども医療費助成制度を改定したら	非課税世帯	窓口負担なし	窓口負担なし
	課税世帯		償還払い

こちらくらしの相談所（No. 574）

携帯 080-3996-0237（井上）

道路異常は「こちくら」へ

中越パルプ工場のそばの川内川沿いに住んでいる人から、道路に穴があいているので見てほしいと言われました。現場を見るとソフトボールよりも少し大きい穴が三か所もあいていました。市に「中越パルプ工場横の里道には３カ所の穴があいています。」と通報しました。市からは数日後に「本路線は市道向田・高城線の側道となっており、令和６年度に舗装打換えを行うことで、すでに設計が完了し、入札待ちとなっています。受注業者が決まりましたら、舗装維持修繕工事を実施します。なお、現在のポットホールについては、２４日（金）の応急措置が完了しています。」との回答がありました。相談者にはその旨を伝え、安心してもらいました。道路の異常などは薩摩川内市の道路河川課か「こちくら」にご連絡ください。（お詫びと訂正）

前回の「こちくら」の土地台帳等の記事で閲覧廃止は２０２５年３月末からとありましたが、２０２５年１月から廃止でした。お詫びし訂正します。

二面もおよみください

エプロンおばさんの簡単クッキング（636）

ナスソース

材料（２人分）……

ナス（中）３本、ウスターソース大３～４、ごま油少々

つくり方……

①ナスはへたを取って縦半分に切る。皮面に格子状に切り込みを入れ、水にさらして水にさらして水気を拭き取る。

②フライパンに油を入れて中火で熱し、①のナスを、切り口を下にして入れ、約７割に火が通ったら裏返して焼く。フライパンの余分な油を拭き取り、ウスターソースを入れて絡め。塩・コショウで味を調える。ごま油で香りをつけ、器に盛る。

ご案内

２０２４年 国民平和大行進（薩摩川内コース）

日時　6/21（金）午前９時半

場所　薩摩川内市役所（センノオト側出入口）

○９時から市長と議長に申し入れし、９時半～１０時まで集会。

○１０時に出発し、ニシムタ前でスタンディングを行います。

途中、ローソン大小路店で休憩します。

映画評

国際的に評価が高まる濱口竜介監督の最新作です。題名が奇妙というか風変わりです。映画は、やはりというべきか、独特な雰囲気です。長野県の山間部、標高の高いところにある小さな町。霧島の山道を車で走るときに見かけるような集落です。道路から森の方へ入るとうっそうと茂る木々。薄暗い静寂の中を歩く。何も起こらないのに不穏な感じがしてきます。開拓団の子孫として暮らす巧（大美賀均）は保育園に通う娘の花（西川玲）と２人暮らし。古くはなっていますが、自作と思われるがっしりとしたログハウス風の家。雪解け水を汲み、薪を斧で割って燃料にする、静かで慎ましい生活です。集落の区長、水の美味しさに惹かれて移住し、うどん屋を営んでいる女性など周囲の人たちは、口数が少なく、偏屈者にもみえる巧を、あるときは頼りにし、花との生活を見守りながら、穏やかに暮らしています。ある日、集落内にグランピング場を建設する計画が持ち上がり、計画を進める東京の芸能事務所が住民説明会を開きます。行政からの補助金も受け取り、設計も終え、〝ガス抜き〟のための形ばかりの説明会。浄化槽の位置や管理体制をめぐって住民から鋭い指摘を受け、戸惑う事務所の社員。この社員と巧との関わりが、異質な緊張感とでもいうべきラストに向かっていきます。劇映画であり、俳優が演じているのですが、すべて知らない俳優で、地元の住人としか見えませんでした。説明会で区長が社員に、「水は上から下に流れるんだよね」、口数少ない巧が、「やり過ぎたらバランスがこわれる」。何気ないですが、はっとします。いわゆる〝わかりやすい映画〟ではないと思います。特にラストについては様々な解釈がきかれています。自然への尊敬と畏れ。自然には悪もなく、また、善もないということでしょうか。2023年のベネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞しています。（紫寝間太郎・映画マニア）

←中俣先生のブログはこちら

中俣先生のつれづれなるままに（760）

高来児童クラブのみなさんを高城の史跡巡りに連れ出し、好評だった。それに味を占めたわけでもないが、そこで案内しながらしゃべったことをまとめて、『文化薩摩川内』に投稿してみようと、途方もないことを思い立った。案内は、高来小学校は信興寺跡で、校長住宅はお墓だったところに建てられているという説明から始まった。矢立では、「矢立の初めとして」という松尾芭蕉の「奥の細道」の文を引用しながら、「昔の人はあの山を越えることが旅の始まりだった」と、我ながら立派な説明をした。「本町」に来ると、本町は元町、士農工商の身分制度が確立していない時代に栄えた町で、武士も町人も百姓も混住していたとしゃべり、新しい町としての「野町」のことも話した。なお、『文化薩摩川内』には、ここに、垂水から逃れてきたわが先祖も居を構えていると書いている。それから「野町」にいき、参勤交代に伴って薩摩街道が整備され、ここが宿場町に指定されたと説明。そんなこんなで、あとで分かったことだが、外城制度として馬場が形成されたのは、朝鮮の役後、島津義弘から土地を賜り、貴久が外城を建てた16世紀のころらしい。貴久はまた、零落した武士を取り立てて土地を与えたが、わが先祖が妹野平の広大な土地を頂いたのもこのころではなかろうか。そんな夢物語に浸りながら、口案内からエッセイへと、高城の歴史研究会の元会長、有馬さんにも見てもらって仕上げのだった。（高来児童クラブ支援員）